

研究課題名	Food protein induced enterocolitis syndrome 診断における血清 TARC 値の有用性に関する研究
フリガナ	ハマノ ショウ
代表者名	濱野 翔
所属機関 (機関名) (役職名)	杏林大学医学部 小児科学教室 任期助教
本助成金による発表 論文, 学会発表	未発表

研究結果要約

Food protein induced enterocolitis syndrome: FPIES は診断に有用なバイオマーカーがなく、確定診断を行うためには食物経口負荷試験が必須である。本研究は FPIES の症例では嘔吐出現後に血清 TARC 値が上昇すること示し、血清 TARC 値が FPIES の診断に有用であることを確認することを目的とした臨床研究である。当該研究は 2020 年 5 月に当院倫理委員会の承認を得て、開始した。目標症例数は疾患群 18 例、対照群 18 例であったが、現時点で疾患群 12 例、対照群 12 例が登録できている。この 2 群間の嘔吐後の血清 TARC 値の上昇率を比較したところ、疾患群で有意に血清 TARC 値が上昇していた。現在は FPIES が疑われた、または以前に食物負荷試験により FPIES と診断された症例で新たに食物負荷試験を行い、消化器症状を認めることがなかった負荷試験陰性群を加えた検討を予定している。3 群の症例数が揃った時点で、他の Th1 系、Th2 系、Th17 系のサイトカインも測定し、3 群間での比較検討を追加する予定である (2022 年 12 月末まで計画延長課題のため途中状況として記載)。